

日点委通信

No. 9

1993年10月1日発行

日本点字委員会総会報告

日本点字委員会は、1993年5月15日・16日の両日、大阪市北区の山西福祉記念会館において、第29回総会を開催し、次の事項を協議した。

1. 漢字仮名交じり文からの点字化の留意点について

『日本の点字 第18号』に基づき、関東地区小委員会から「ルビの扱いについて」の報告と「ルビカッコについて —— 日本語における添え字の扱い ——」の報告があり、これらとの関連を持ちながら「点訳者注について」の提案がなされた。提案内容は「点訳者注をどのような場合に入れるか」「点訳者挿入符を入れる位置について」「注内容の入れ方について」の3点に整理されていたが、質疑応答と意見交換に終始し、今回は、点訳者注は文章の流れを妨げないようなるべく簡潔に記すという大原則を確認するにとどめた。

2. 『日本点字表記法 1990年版』を巡って

日本盲人社会福祉施設協議会点字図書館部会の点字指導法確立委員会が、全国の点字図書館を対象として実施した「点字表記に関するアンケート調査」の結果報告を受けて意見交換を行った。調査項目は、(1)点訳者養成に使っている主なテキストについて、(2)点字表記について、(3)「点字表記辞典」の取扱いについて、の3項目で、(2)の「点字表記について」は、①複合名詞の切れ続きと②「する」の扱いについて、表記の改訂の実施の有無と具体的な語例について「切る」か「続ける」かの回答を求めるものであった。このアンケート調査の回答率は72.8%、そのうち、複合名詞の切れ続きについて表記の改訂をしている点字図書館は86.5%、「する」の扱いについて表記の改訂をしている点字図書館は91%であった。

北米点字委員会が開発中の新しい統一英語点字

北米点字委員会は、点訳だけでなく点字で書いてもそれに対応する墨字の表現が正しく推測でき、又コンピュータでそのまま墨字文書に変換可能な点字体系を開発するため、一般の英語文書から専門分野の文書までを統一された一通りの点字体系で書くことのできる新しい「統一英語点字」の研究を進めている。4、5年後には広く英語圏で承認され普及していくものと予測される。

近年のコンピュータ技術の進歩に伴い英語圏では、点字と墨字との相互変換が実用段階に入っている。英語の電子ファイルはパーソナル・コンピュータで音声または点字で直接読むことができる。又、英語の印刷物もイメージ・スキャナで読みとり点訳してくれるサービスが広く利用されている。視覚障害者も墨字の障壁を越えて晴眼者と共に活動する場面が一般化している。現在の英語点字は墨字の文書情報を点訳することを中心に開発されてきた。しかし、視覚障害者と晴眼者との社会的統合環境を更に改善するためには発想の転換が必要とされる。点訳だけでなく点字で書いても正しい墨字の文書が直接作成可能な新しい点字体系の開発が要求される。このため、北米点字委員会は一般の英語文書から数学や理科及び情報処理等、専門分野の墨字を統一された一通りの点字で表現できる新しい「統一英語点字」の開発を進めている。

1992年までに開発のための指針と目標が定められている。

(1) 最も重要な指針は、点字の初心者及び習熟者にとって読みやすくわかりやすい点字の体系を開発することである。新しい「統一英語点字」を学習しやすくするため、現在の点字表記をできる限り踏襲する。

(2) 統一英語点字で表記する領域は、1級点字及び2級点字のすべての記号と数学や理科及び情報処理等の領域で用いられるすべての記号と表現である。ただし、楽譜点字は別の取扱いとする。

(3) 点字の略字はできる限り変更しない。現在の点字使用者が最小限の努力で学習できるようにする。

(4) 統一点字の各記号と墨字の記号とは、1対1に対応させる。又、墨字の表現形式に対して点字も同様な表現形式で表記できるようにする。

(5) 点字と墨字との相互変換等、点字のコンピュータ処理を可能にする。

(6) 専門領域の文書を、統一された一通りの点字体系で記述できるようにするため、

一般文書用の点字表記を専門領域の点字表記に拡張する「規則」を開発する。

(7) 墨字の各記号が何マスの点字でどのように表現されているかが人にもコンピュータにも正確にわかるようにする。

このような指針と目標に基づき「統一英語点字」を開発するため、六つの委員会が設けられている。第2委員会はその中核である。一般の文書用点字体系を定めると共に、それを数学や理科及び情報処理等、専門分野の点字表記に拡張するための「規則」を作成することが課せられている。

1992年11月には、既にその最初の中間報告が出されている。この報告書を受けて他の数学や科学技術等、専門領域の四つの委員会がそれぞれの専門点字体系への拡張を進める。それと共に第2委員会はそれらの結果の点字体系の整合性をはかるため、「規則」の見直し等の作業を進める。実地評価の後、数年後には最終的「規則」が完成される予定である。

この報告書によれば、アルファベットや数字及びほとんどの略字は、現在の記号が踏襲されている。しかしながら、⑥の点の大文字や⑤⑥の点の文字指示の作用を明確にするため、(ation, ence)のような⑥の点前置や⑤⑥の点前置の語尾略字は略字表から排除される。

墨字との対応をとるため、(and, for, of, with, the) の1マス略字と(a)の間の空白を省くことはできなくなる。(to, into, by) の下がり記号の略字も略字表から排除される。又、現在のカッコ「⠠**⠠」は「⠠⠠**⠠⠠」のように開き記号と閉じ記号とが区別される。

一方、現在数学や理科の英語点字で使用されているネメス・コードでは、下がり数字を使用している。しかし、聞くところによると一通りの点字表記を実現するため、数学・理科の点字でも一般用の数符付きの数字表記が採用されるため、数学や理科記号は大幅に改正されるようである。

1993年6月に、北米点字委員会の研究開発プロジェクトにすぎなかったこの「統一英語点字」は、国際英語点字協議会で国際プロジェクトとして公式に承認された。4、5年後には完成し広く英語圏の点字委員会で承認されるものと予測される。

この「統一英語点字」開発と普及はわが国の英語点字教育にも直接的影響を与えるであろう。又、その開発理念と開発手法はわが国の点字体系の開発にも有用な示唆を与えるであろう。

頒 布 図 書 案 内

注文先・日本点字図書館用具事業部（消費税がかかります）

1. 『日本点字表記法 1990年版』（墨字版） 1000円（送料310円）
2. 『点字数学記号解説』（墨字版） 600円（送料240円）
3. 『点字理科記号解説』（墨字版） 600円（送料240円）
4. 『日本の点字 100年の歩み』（墨字版） 500円（送料240円）

（郵便振替 東京5-44522）

注文先・日本字図書館出版事業部（消費税はかかりません）

1. 『日本点字表記法 1990年版』（点字版） 5100円（送料無料）

（郵便振替 東京9-750672）

注文先・日本点字委員会事務局

	（点 字 版）	（墨 字 版）
1.	『点字数学記号解説』 1200円（送料無料）	
	『点字数学記号解説別冊』 3800円（送料無料）	
2.	『点字理科記号解説』 1200円（送料無料）	
3.	『日本の点字 100年の歩み』 700円（送料無料）	
4.	『日本の点字 第9号』 300円（送料無料）	300円（送料175円）
	（コンピューター用点字 動詞「する」の切れ続き その他）	
5.	『日本の点字 第11号』 400円（送料無料）	400円（送料240円）
	（現代かなづかいの問題点とその展望 点字関係文献目録 その他）	
6.	『日本の点字 第12号』 400円（送料無料）	400円（送料240円）
	（外来語及び外来語を含む複合語の切れ続きについて その他）	
7.	『日本の点字 第13号』 500円（送料無料）	500円（送料240円）
	（複合語の構成と分かち書きの問題 国語審議会への要望書 その他）	
8.	『日本の点字 第14号』 500円（送料無料）	500円（送料240円）
	（「改定現代仮名遣い」原文 点字表記に関する調査報告 その他）	
9.	『日本の点字 第16号』 500円（送料無料）	500円（送料175円）
	（点字が開いた社会参加への道 点字と情報機器 その他）	
10.	『日本の点字 第17号』 600円（送料無料）	600円（送料240円）
	（日本点字委員会25年の歩み 盲学校用点字教科書の表記について その他）	
11.	『日本の点字 第18号』 500円（送料無料）	500円（送料240円）
	（英語点字表記の一部改訂について ルビの扱いについて その他）	

墨字版の送料は冊数が多くなれば割安になりますのでお問い合わせください。

〒169 東京都新宿区高田馬場1丁目23番4号 電話 東京03(3209)0241番
日本点字図書館内 日本点字委員会事務局（郵便振替 東京0-42820）